

大会名 Competition	平成24年度 第58回 秋田県高等学校総合体育大会 バスケットボール競技
No. M-3	Year Month Day Time 2012 年 6 月 5 日 13 : 06
場 所 Place	秋田市立体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チーム A		チーム B					
能代工業	<table border="1"> <tr><td>18 1st 17</td></tr> <tr><td>27 2nd 12</td></tr> <tr><td>25 3rd 18</td></tr> <tr><td>37 4th 14</td></tr> <tr><td>OT</td></tr> </table>	18 1st 17	27 2nd 12	25 3rd 18	37 4th 14	OT	横手清陵
18 1st 17							
27 2nd 12							
25 3rd 18							
37 4th 14							
OT							
107 ○		61 ●					

主審:Referee
谷 地 温 (秋田)
副審:1stUmpire
小 川 裕 之 (秋田)
副審:2ndUmpire
佐々木 一 也 (秋田)
テーブル・オフィシャルズ:Table officials
金足農業高等学校

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	土 屋 真 人		26	2	6	8	3	4	×	千 葉 真 吾	CAP	10	0	4	2	3
5	×	佐々木 健 登		12	0	6	0	1	5	×	谷 口 純 也		16	0	7	2	1
6	/	松 本 大 河		17	2	5	1	1	6	×	江 上 領		6	0	2	2	5
7	/	野 里 惇 貴	CAP	13	3	1	2	0	7	×	平 塚 大 智		8	1	2	1	5
8		三 浦 基		-	-	-	-	0	8	×	小 野 聡 起		5	0	2	1	4
9	/	三 根 一 求		0	0	0	0	0	9	/	佐 藤 地 洋		0	0	0	0	2
10	×	中 島 強 太		13	0	3	7	3	10		佐 藤 嘉 記		-	-	-	-	0
11	/	五十嵐 駆		4	0	2	0	3	11		若 松 章 吾		-	-	-	-	0
12	×	小田桐 匡 志		13	0	5	3	1	12		杉 山 陸		-	-	-	-	0
13	×	長谷川 暢		2	0	1	0	2	13		佐々木 諒 太		-	-	-	-	0
14	/	島 山 凌		4	0	1	2	0	14		高 村 星 哉		-	-	-	-	0
15	/	荒 木 直		3	0	1	1	0	15		藤 原 知 之		-	-	-	-	0
16		吉 川 雄 磨		-	-	-	-	0	16		伊 藤 諒 佑 斗		-	-	-	-	0
17		伊 藤 諒 哉		-	-	-	-	0	17		土 田 大 斗		-	-	-	-	0
18	/	安 保 友 貴		0	0	0	0	0	18	/	千 葉 凌 也		2	0	1	0	1
19		渡 邊 竜 也		-	-	-	-	0	19		大日向 雅 人		-	-	-	-	0
20	/	砥 綿 啓 伍		0	0	0	0	1	20	/	藤 平 大 樹		6	0	3	0	3
21		湊 俊 樹		-	-	-	-	0	21	/	高 橋 司 行		8	0	4	0	0
コーチ		佐 藤 信 長							コーチ		佐 藤 匠						
Aコーチ		平 山 智 哉							Aコーチ		伊 藤 健						
合 計				107	7	31	24	15	合 計				61	1	25	8	24

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝戦は44年連続49回目の優勝を狙う能代工業と、前日の熱戦を制し決勝へと駒を進めた横手清陵との対戦となった。能代工業はオールコートのマンツーマン、横手清陵はハーフコートのマンツーマンでスタート。先手を取ったのは能代工業。#10中島がゴール下へ切り込み得点を挙げる。さらに#10中島のフリースロー、#5佐々木の速攻で6-0と序盤リードを奪う。対する横手清陵は開始約2分、ようやく#4千葉のフリースローで初得点。これで固さがとれたのかりバウンドに果敢に飛び込むなどプレイに気迫がこもり始める。その後は両チームの厳しいディフェンスでなかなか得点の入らない展開になるが、終盤横手清陵が6連続得点で差を縮め、18-17の一点差で第2ピリオドへ。

第2ピリオドは能代工業#4土屋の3P、#11五十嵐のドライブインに対して、横手清陵は#6江上、#21高橋の速攻で対抗。一進一退の攻防が続くかと思われたが、ここから能代工業が11連続得点の猛攻を見せ横手清陵を突き放しにかかる。横手清陵はシュートが決まらず苦しい展開に。中盤以降、#7平塚のジャンプシュートなどで追いつくが差は詰まらず45-29の16点差で前半が終了。

第3ピリオドは横手清陵#8小野のリバウンドからのシュートで横手清陵が先制。このまま追い上げムードといきたいところであったが、能代工業の3-2のゾーンプレスに対応できずミスが続く。なんとか突破口を見出したい横手清陵はディフェンスのプレッシャーを強めミスを誘うが、点差を縮めることができない。能代工業は前半負傷退場した#5佐々木もコートに戻り、チーム全員でボールをひたむきに追いかけて得点を重ねる。結果70-47の23点差として最終ピリオドを迎えることとなる。

最終ピリオドも能代工業はオールコートでプレッシャーをかけ続ける。それに対して横手清陵は足が止まり、前半では見られなかったような単純なミスを連発。能代工業が点差を広げていく。終盤こそ横手清陵は#5谷口のジャンプシュートなどで意地を見せるものの点差を詰めるまでには至らず。残り2分から能代工業は#7野里が8連続得点で試合を締めくり107-61で優勝を飾った。